

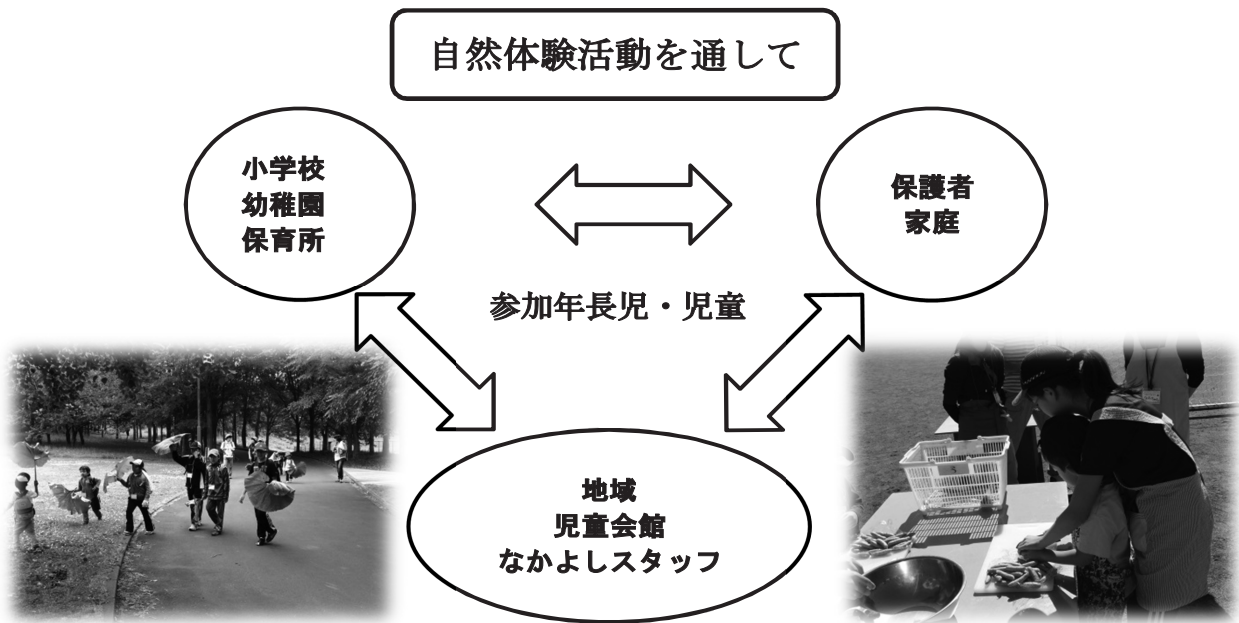
「なかよしキャンプ」

札幌市教育委員会 生涯学習部 生涯学習推進課

1 はじめに

昨今、小学校への就学、小学校から中学校、中学校から高校への進学といった、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、集団行動等において適応できないケースの増加が指摘されている。

そこで、札幌市教育委員会では、1年後、同じ学校に通う年長児と児童を対象にした幼保小連携自然体験活動「なかよしキャンプ」を展開している。本事業は、札幌の豊かな自然環境を活用し、自然体験活動を通して人間性や社会性、コミュニケーション能力を高め、共に生きる喜びを実感できるよう推進していくこと目的としており、平成23年度から3年間のモデル事業を経て、札幌市教育振興基本計画の事業として5年計画（今年度2年目）で実施している。



2 実施校、参加人数

市内を4ブロックに分け、平成26年度からの5年間、以下の5校を実施校としている。

- 北ブロック：百合が原小学校 【4・5年生7名、年長児12名】
 東ブロック：平岡公園小学校 【5年生14名、年長児17名】
 南ブロック：緑丘小学校 【5年生4名、年長児8名】
 西ブロック：手稲北小学校、星置東小学校 【5年生21名、年長児16名】

3 実施日、内容

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
北ブロック	6月20日(土) 百合が原小学校→ 百合が原公園	8月30日(日) 野幌森林公園	10月18日(日) サッポロさとらんど	1月16日(土)～17日(日) 青少年山の家	2月13日(土) 百合が原小学校
	自然遊び	開拓の村ノ道博物館 調べ活動	アウトドアクッキング	お泊まりキャンプ～キャンプ ファイヤー、雪遊び等	学校プログラム まとめの時間
東ブロック	6月21日(日) 平岡公園小学校→ 平岡公園	8月29日(土) 滝野自然学園	10月25日(日) 野幌森林公園	1月16日(土)～17日(日) 青少年山の家	2月14日(日) 平岡公園小学校
	自然遊び	じゃがいも収穫体験	開拓の村ノ道博物館 調べ活動	お泊まりキャンプ～キャンプ ファイヤー、雪遊び等	学校プログラム まとめの時間
南ブロック	6月28日(日) 緑丘小学校→ 旭山記念公園	8月30日(日) 円山動物園	10月25日(日) 北方自然教育園	12月19日(土)～20日(日) 青少年山の家	2月13日(土) 緑丘小学校
	自然遊び	動物園での調べ活動	果物収穫体験	お泊まりキャンプ～キャンプ ファイヤー、雪遊び等	学校プログラム まとめの時間
西ブロック	6月21日(日) 手稲北小学校・星置東小学 校(各校)→星観緑地	8月29日(土) 大浜海岸	10月18日(日) 手稲北小学校	12月19日(土)～20日(日) 青少年山の家	2月14日(日) 星置東小学校 (まとめの時間は各校)
	自然遊び	磯遊び	カボチャクッキング	お泊まりキャンプ～キャンプ ファイヤー、雪遊び等	学校プログラム まとめの時間

4 連携の実際

(1) ステップ1 施設の交流

学校や地域の公園等の施設を活用し、自然体験活動を通して年長児と児童の交流を行っている。

① 小学校見学（校内探検）

1回目と5回目共に5年生が中心となって学校探検を実施した。1回目については、教室やトイレ、水飲み場などを見学し、幼稚園・保育所との違いを知った。1年生教室の椅子に座った年長児は歓声をあげ、保護者からは、「入学前に学校を見学でき安心した。」との声があった。5回目は、4月以降を見据え、実際に使用する特別教室を中心に、5年生が年長児に分かりやすく説明をしながら



ら学校見学を行ったことで、入学への期待感や安心感を更に高めていた。

② 小学校の校庭の利用（5回目の活動）

学校の校庭を活用し、かまくらを作ったり、走り回ったり、雪合戦をしたりすることで北国らしさ【雪】を大いに満喫していた。

（2）ステップ2 異校種間の交流

年長児が進学する際に、新しい環境での生活や学習に移行・接続できるよう、下記の手立てを講じながら、事業を展開した。

① 子ども同士の交流

子どもたちは初めて会う異学年の対象に対して最初は戸惑いがあるものの、自然体験活動を通して感動したり、喜びを共有したりする中で少しずつ距離を縮めることができた。また、参加者の住所等を考慮しグループ編成を行ったことで、なかよしキャンプ以外での交流(近隣公園で遊ぶ等)も生まれた。4月以降、一緒に登校する等の発展も期待したい。



② 保護者同士の交流

第1回目と5回目に、子どもだけではなく保護者同士の交流（自己紹介等）を設けた。以後、保護者同士の交流が深まり、近隣の公園等で年長児と児童が遊んだという声も聞かれた。また、各回の集合・解散が学校となっているため、送迎にきた保護者の交流の場となっていた。

③ 年長児同士の交流

なかよしキャンプは実施校の5年生と1年後そこに入学する年長児が対象である。年長児については、同じ校区内に住んでいるものの、様々な幼稚園や保育所に通園している。参加させるきっかけとして、「1年後同じ小学校に入学する友達が幼稚園にいない」「校区内に友達がいない」という理由も少なくない。違う幼稚園や保育所に通っている年長児同士にも良い影響を及ぼしている。

④ 園・学校（実施校）・関係機関・保護者との交流

各回実施の案内を参加年長児が在籍する園や実施校に送付し、活動の様子を見ていただいた。また、なかよしキャンプでの5年生の成長や様子、学校での5年生の様子、総合的な学習の時間で実施している幼稚園や保育所との交流会について情報交流を行い、事業構築の参考としてきた。

5年生については、児童の成長や変容を実施校に伝え、学校でも声を掛けていただいたことで、更に自信と責任感が高まったようである。年長児については、事業終了後に保護者へ1日の様子を直接伝え、情報交流を行っている。

事業最終回には、実施校管理職や保護者にも参加いただき、修了式や事業の成果・子ども達の成長や様子について懇談を行った。

(3) ステップ3 教育課程の接続

なかよしキャンプは、希望者が参加対象であるため、学校の教育課程との直接的な結びつきはない。しかし、実施校の5年生と1年後そこに入学する年長児を対象としている活動は、幼保小連携の取組を進める一助になるものと考えている。

また、各学校（実施校）においては、現在様々な取り組みがなされている。

【5年生と年長児の交流例】

- ① 総合的な学習の時間を活用しての交流会
- ② 就学検診時の準備や運営、玄関先での挨拶
- ③ 1日入学での交流

(4) ステップ4 一貫性のある保育・教育活動

子どもたちの成長には指導者の関わりが重要である。活動を活動だけで終わらせることなく、指導者が子ども同士の関係性をコーディネートしたり、子どもの成長を評価したりすることで、子どもたちの自己肯定感を高め、次への活動のステップにすることができると考えている。そのために、ねらいや指導方法、評価視点等を事前の打合わせで共有し、事業を推進している。

具体的な取組の例としては「お世話をする」「面倒をみる」という言葉を使わないことである。年長児は、幼稚園・保育所では最高学年として生活しているので、5年生には「年長児が更に成長するために、どんな言葉を掛けるといいのか、どのような支援をするといいのか」ということを考えさせるようにしている。また、年長児には「自分でできることは自分で行う」を徹底させ、できたことを評価している。

年長児からは「カレーをみんなで作ることが楽しかった。おいしかった。」5年生からは「最初はあまり関わらず、5年生同士で話をしていたけれど、どんどん関わられるようになって、年長さんと話す時間の方が長くなった。」など、達成感や自己の変容が見られる感想があった。



5 自然体験活動について

現行の学習指導要領では体験活動の重要性が示されている。また、平成28年度札幌市学校教育の重点においても、豊かな心の育成に関して、



- ・ 幼稚園段階→自然などの身近な環境と十分に関わる中で得た感動を他の幼児や教師と共有し、豊かな感性を養う。
- ・ 小学校段階→自然の素晴らしさを直接体験する取組を充実させ、思いやりや美しいものに感動する感性を育む。

とある。今後も身近な自然を活用し、自然体験活動を通して、豊かな心の育成に寄与できるよう事業を推進していきたい。

6 参加者・保護者の感想

一昨年度行った追跡調査では、新1年生となった児童が「小学校は楽しい」、新6年生についても「1年生との関わりが楽しい」「なかよしキャンプの経験が役立った」と多くが回答している。また、保護者からは「知っているお兄さん、お姉さんがいることが嬉しいようで、毎日わくわくで伸び伸び通学している。」「6年生になった今は、なかよしキャンプで知り合った1年生をきっかけとして、その周りの1年生とも交流の輪が広がっている。」との声が聞かれた。

また、今年度の保護者からは、

【年長児】

- 小学校への不安が減り、小学校への憧れが大きくなり、今からとても楽しみにしている。
- 就学時健診と一日入学で小学校に来たが、既になかよしキャンプで何度か小学校にきているので、場所に対する緊張はなかったようである。
- 毎回小学校に集合・解散なので、通学路の確認や登校練習になって良かった。
- 今通っている保育所以外の、小学校で初めて一緒になる保護者と知り合うことができ良かった。

【児童】

- なかなか行けない海で遊び、自然に対する興味を深めていた。
- 毎回、今度はどんな事をして楽しませてあげられるかなと考えていた。
- なかよしキャンプが近付くと緊張していたが、毎回楽しかったようである。学校での低学年とのふれあい活動などにも積極的に参加できたみたいである。学校での幼稚園の子たちとの交流でも、なかよしキャンプでの経験が役

立ったと言っていた。

○昨年（現6年生）参加させていただき、小さい子に関わって、6年生になっても1年生にいっぱい親んでもらえ囲まれて楽しく過ごせたようである。自分のことよりまず周りをといる、思いやりをもって行動することが何よりの学びになったと思う。（今年度年長の末っ子が参加）

との声が聞かれ、双方にとって間違いなくプラスの事業と考える。

7 最後に

なかよしキャンプの大きな特徴は3つ、「年長児と5年生の交流」「自然体験活動」「1年後同じ学校の1年生と6年生」ということである。その3つの特徴を学校教育の中で生かすとすると、

- (1) 総合的な学習の時間等で5年生と近隣の幼稚園・保育所との交流を行う。
- (2) 公園での活動や雪を使った活動を取り入れる（自然体験活動）。
- (3) 4月以降を見据え、1日入学で5年生と年長児が交流する場面を作る。

といった構成が考えられる。系統的に、そして幼保小それぞれが意図を明確にして実践することで、児童には、新6年生に向けた心構え（入学式の準備や当日の対応等）や責任感が、年長児には就学への安心感や期待感が更に高まり、4月以降の新1年生と新6年生による交流がより充実したものになるのではないかと考える。

また、当課において「サッポロサタデースクール事業」を実施している。この事業のプログラムの一つとして、地域の多様な経験や技能をもつ人材を活用し、「自然体験活動を通しながら、児童と幼児の交流」を行うことも、有効な手立ての一つと考える。

